

こごみ日和

京都発！ごみ減量情報誌

vol.102



フジバカマがつなぐ、
文化と環境活動の絆

京都・出雲阿国顕彰会

焼却から溶解&リサイクルへ
機密書類リサイクル事業の28年

京都府紙料協同組合

Rits CLOが目指す
サステナブルファッション

立命館大学 学生レポート

なごみ日和

「京都府立植物園、
つぎの100年に向けてできること」

もっぺん物語 「Nitro」

工夫を尽くして、美化活動

朱雀第五学区地域ごみ減量推進会議



京都市ごみ減量推進会議

フジバカマがつなぐ、文化と環境活動の絆

京都・出雲阿国顕彰会会長 石川百合子さん



石川百合子会長と舞妓小とのさん

四条大橋の北東角、鴨川を臨む一角に、出雲阿国像が凛とした姿で立っている。出雲阿国は歌舞伎の始祖と言われ、安土桃山から江戸時代前期にかけて活躍した女性役者。京都との縁が深く、1994年に建立された。

毎年9月末～10月にかけて、阿国像の足元には淡く幻想的なフジバカマの花が飾られ、見る人を楽しませてくれる。フジバカマの育成を通して、出雲と京都の文化交流・環境保全に力を入れる京都・出雲阿国顕彰会（以下、顕彰会）の石川百合子会長にお話を伺った。

コロナ禍での出会い

顕彰会の設立は2009年。阿国の功績を称え、阿国のふるさとである出雲大社をはじめ出雲市の魅力を発信しようと、出雲市出身の石川会長らが立ち上げた。毎月4日に集まり、阿国像の清掃や周辺のごみ拾い、景観保全に努めている。清掃活動を続ける中で、「もっと阿国さんのこと、出雲のことを知ってもらうにはどうすればいいか」と石川会長は悩んでいたそう。そんな中、コロナ禍に見舞われ思うように活動できない時期があった。石川会長は活動自粛期間をチャンスと捉え、京都大学の元技官、真島敏行氏の協力を得て、シマミミズと同大学の馬術部から提供してもらった馬糞を混ぜて、生ごみ堆肥づくりに挑戦した。また、顕彰会の活動拠点の一つである、東山いきいき市民活動センターの中庭に手作りのコンポストを設置。できあがった堆肥は、フジバカマの育成にも活用



毎月4日は阿国像周辺の清掃活動

している。「顕彰会が資源循環の一翼を担うことで、人とのつながりが広まり、新たな発見や学びの場になることが嬉しい」と石川会長は話す。

コミュニケーションフラワー

顕彰会では、2022年からフジバカマの自生種の保全育成に取り組んでいる。フジバカマは京都府の絶滅寸前種に指定されているキク科の植物で、秋の七草としても有名。京都市内では「源氏藤袴会」をはじめ、フジバカマの保全育成に取り組む市民団体が多数あり、(公財)京都市都市緑化協会がフジバカマをはじめとする和の花の保全育成を支援している。



フジバカマ育成の様子

フジバカマの自生種は挿し芽によって増やすため、顕彰会では毎年5月に挿し芽をし、7月に定植、9月には高さ1メートルにも成長する。東山いきいき市民活動センターの利用者を中心に、フジバカマの苗を多くの里親に育てても

らう中で、石川会長は「地域とのつながりが強くなった」と感じるという。見事に開花したフジバカマを阿国像の前に飾ると、地元の人や観光客が話しかけてくれるそうで、「『源氏物語』にも登場するフジバカマは、最高のコミュニケーションフラワー。見る人の心を和ませ、思わずお喋りが弾みます」と石川会長。企業やお店などの協力の環を更に広げていきたいそう。

リユースで広がる支援の輪

フジバカマの育成事業が2年目を迎えた2023年、石川会長にとって嬉しいニュースが飛び込んできた。京都・宮川町に、出雲市出身の舞妓、小とのさんが誕生したのだ。早速、顕彰会から満開に咲き誇るフジバカマを届けたところ、「阿国さんがつないだフジバカマ」として京都新聞の取材を受けた。「小とのさんとのご縁で、お茶屋『しげ森』さんが顕彰会の活動を応援して下さい、大きな励みになっています」と石川会長。毎年100鉢(300株以上)のフジバカマ育成を目標に掲げる中、植木鉢や園芸用土の確保が課題になっていたところ、しげ森の女将から、リユースの形で鉢

や土を寄贈してもらったのだ。取材時、寄贈された鉢には、小振りながらも華やかなフジバカマの花が咲いていた。

出雲と京都の架け橋に

「フジバカマと言えば、長距離を移動することで知られる蝶『アサギマダラ』が好む植物として有名ですが、出雲大社の境内にもフジバカマが植えられ、その近くの神迎神事かむかえしんじが執り行われる稲佐の浜には『スナピキソウ』が群生し、共にアサギマダラの飛来地として知られています」。

阿国さんが結ぶ出雲と京都。フジバカマとアサギマダラによっても結ばれていた二つの都。石川会長は現在、本業の傍ら、阿国さんにまつわる美術工芸品や出雲の魅力を伝える展示ができる常設ギャラリーの準備を進めている。そしてもう一つ、大きな夢がある。フジバカマの自生種を復活させ、秋の京都がフジバカマの香りに包まれ、たくさんのアサギマダラが飛来する風景を見ること。「阿国さんの故郷を伝える活動」は、京都の人と出雲の国を結びながら、さらに世界へと大きく羽ばたいていくことでしょ。

お茶屋『しげ森』の女将、谷口三知子さんが取り組む

保護犬活動



谷口さんは京都の花街・宮川町にある置屋の女将を務める傍ら、保護犬活動にも精力的に取り組まれている。芸舞妓が共同生活を送る置屋では、ワンコ3匹がともに暮らしているという。

活動のきっかけは、ペットショップから柴犬の“ゆき”をお迎えし、ゆきの両親に興味を持った事だった。ペットショップの実情を知り、胸を痛めた谷口さんはいかにかできないかと動き始めた。信頼できる保護犬活動家に出会い支援するうちに、ご自身も影響を受けたと話す。

10代の舞妓たちを指導し、育てる立場の谷口さんは、舞妓たちにも社会奉仕活動に触れる機会を設けている。「自分一人で消費しているのではなく、どんなことでも自分に関係があり選ってくる。全てはこの花街に繋がっている。心の豊かさやものの考え方を養ってほしい」と願いながら、日々舞妓たちの成長も見守っている。

これから家族の一員として生きものを迎えたいと思っている方々に伝えたいことを伺うと、「まずは知ること、そして考えること、できることから行動する。例えば、家で飼うことが難しい場合には、活動について周りに伝えることや活動を支援するグッズを買うことも選択肢のひとつ。自分が頂いた有難みを循環させることが大切」と返ってきた。



▶HP: お茶屋しげ森



▶Instagram: shiba.yukihime

小とのさんと柴犬のゆき



京都・出雲阿国顕彰会

〒604-8235 京都市中京区堀川通四条上る錦堀川町630

▶Instagram: kyoto.okuni





焼却から溶解&リサイクルへ 機密書類リサイクル事業の28年



京都府紙料協同組合 理事長 澤田修一氏

京都府紙料協同組合

京都府紙料協同組合は、紙の原料に携わる同業有志により組織された組合。成り立ちは古く、歴史は60年ほど前にさかのぼる。京都市ごみ減量推進会議（以下、「ごみ減」）が立ち上げた「機密書類リサイクル事業」（以下、当事業）を長年支えてくれている心強いパートナーだ。スタートから四半世紀。機密書類のリサイクルについて、理事長の澤田修一氏に改めてお話を伺った。

機密書類って？

機密書類ときいて、どんなものを思いうかべるだろう。企業の機密情報を含む極秘文書、取り扱い要注意の顧客リスト…。そういった超重要そうなものだけでなく、個人情報に記載された申込書も受け取った側は書類を適正に取り扱い、時期が来れば適切に処分しなくてはならない。

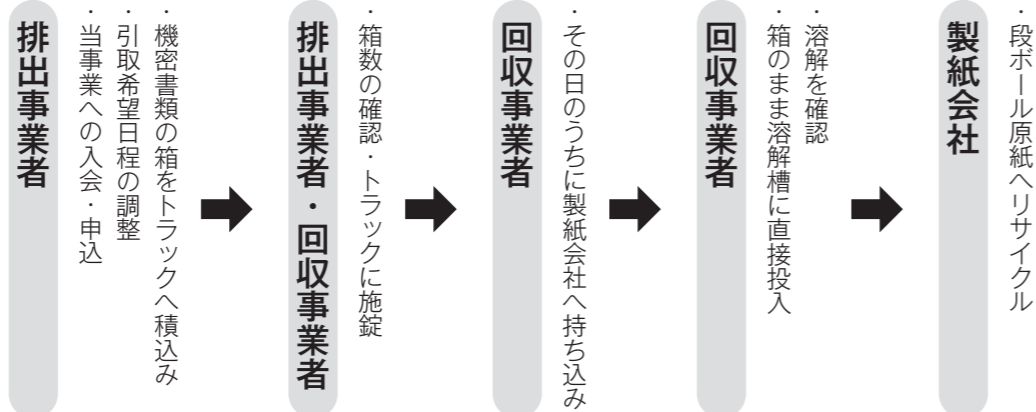
焼却=安心!?

世の中に数多く存在する機密書類。ひと昔前は焼却処分するのが当たり前だった。それが最も安心だと思われていたからだ。

機密書類リサイクルの流れ



機密書類の箱をトラックへ積み込む様子



1996年に「ごみ減」が誕生。焼却されていた京都市内の機密書類を何とかリサイクルできないかと声があがり、京都府紙料協同組合に協力を求めることになった。近郊の製紙会社、大津板紙株式会社へ搬入することにより、燃やすのではなく溶かす＝溶解することで機密を守りつつ、再び紙へとリサイクルする体制を整えた。翌年に当事業はスタート。立ち上げ当初は行政機関の機密書類が多かったが、軌道に乗ると参加する事業者も少しずつ増えていった。



ベルトコンベアに乗ってバルバー（溶解槽）へ運ばれる機密書類

溶解=安心、が常識に

その後も地道に続けてきた当事業。初期は環境意識の高い事業者が参加している形だったが、だんだんと世の中の空気は変化。「しまつのこころ条例」により、京都市では2015年からリサイクル可能なすべての紙類の分別が義務化され、クリーンセンターが紙ごみを受け入れなくなり、動きは加速。全国的にも、多くの事業者にとって機密書類の溶解リサイクルは常識になりつつある。非常に喜ばしいことだ。

バルバー（溶解槽）を上から見たところ
機密書類は、箱詰めされたまま製紙工場のバルバーへ投入。攪拌され、溶解し、機密は保持されるというしくみ。そして機密書類は段ボールの原紙へリサイクルされる。

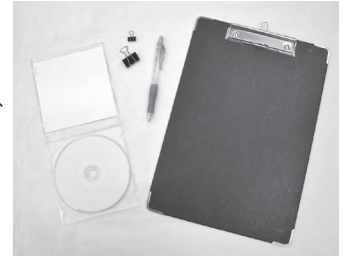


改めて、当事業利用上の注意

一般の古紙と違い、段ボール詰めされた機密書類は、中身を確認することができない。つまり製紙会社としては「何が入っているか分からない」というリスクを負うことになる。実際のところ、「立ち上げ当初は機密書類の段ボール箱にCDやフロッピーディスク、衣類が入っていた…なんてこともありました」と理事長は話す。今ではそんな極端な事例はないとのことだが、数年前に宅配便の伝票や宛名シール（粘性性異物）などの束が大量に混入し、多量の不良品（損紙）が生じてしまったという。禁忌品※による不良品発生や設備に不具合を発生させてしまうことは、社会全体の損失になる。改めて禁忌品の混入に

は十分注意して排出したい。

また、運搬時のトラックには最大積載量が決められており、それを超えないよう箱数から重量を予測し、トラックが手配されている。機密書類は必ず段ボールに入れて、正確な箱数を申請し、超過がないようにも気をつけたい。無駄のない運搬は、不要なエネルギーの削減に。また、より利用しやすいサービスにも繋がっていく。



禁忌品の一例

※禁忌品リスト（大津板紙）

<https://www.otsu-itagami.co.jp/daio/wp-content/themes/otsu-itagami/files/持ち込み禁忌品.pdf>

～利用者の声～

●京都第一赤十字病院

1997年12月、院内焼却炉の閉鎖を機に、このリサイクル事業に参加しています。

排出にあたっては禁忌品の混入対策として、院内の電子掲示板で注意喚起に努めています。メリットとしては「廃棄物の適正処理のために分別することは排出事業者の責務」という意識づけがされること。自身は、2年前の異動を機に、購買担当と廃棄物管理を担うようになり、日々の勉強で理解を深め廃棄物の削減を進めています。

京都第一赤十字病院 調度課長 中島 雅也さん

●某銀行

京都市からの紹介を受けて、2013年から利用を開始しました。機密書類の排出にあたり、ダブルクリップ等を外して箱詰めし、禁忌品が混入しないよう注意しております。また、荷下ろし時に機密書類が散乱しないように、箱の施封をしっかり行っています。毎年廃棄していく必要がある機密資料の処理をスムーズに実施できるほか、環境面でも、費用面でも、全量焼却する場合と比べて良い選択が出来て有難いです。

▷機密書類リサイクル利用の流れ

<https://kyoto-gomigen.jp/works/14.html>



▷機密書類リサイクル事業へのお申込について

<https://kyoto-gomigen.jp/works/16.html>



京都府紙料協同組合

○事務局：〒601-8012京都市南区東九条南岩本町1番地（関西紙料株式会社内）
TEL：075-671-2396
URL：<https://kyoto-shiryokyo.com/>



Hand in Hand

“捨てる”を“つなぐ”へ Rits CLOが目指すサステナブルファッション

Rits CLO (リツクロ) は、「持続可能で魅力的なファッションを広める」を理念に、立命館大学大阪いばらきキャンパスを拠点に活動する学生団体です。経営学部のゼミでアパレル産業が抱える環境・労働問題について学び、サステナブル製品への障壁の高さと実際に行動に移す人の少なさを感じました。これをきっかけにサステナブルファッションの魅力や資源循環の大切さを広めたいという思いから、2023年1月に学生団体を立ち上げました。ファッションが好きなことをきっかけに加入したメンバーが多く、今年2年目の団体。現在は14名で活動しています。

今年度の活動では、「一着を大切に」「誰もが簡単にできる」をコンセプトにリメイク体験を実施しました。一般的なリメイクはミシンで縫い合わせて作るという点から、ミシンを持っていない人や、裁縫の技術がない人にとっては「大変で難しそ



Tシャツを使ったリメイク体験企画

う」というイメージがあります。私たちはこのイメージを払拭し、「誰もが簡単にできる」リメイクを伝えたいと考え、「Tシャツからエコバックを作ろう!」という体験企画を行いました。子どもでも安全で、簡単に作れることを重視し、Tシャツのデザインをそのまま生かして、はさみで切り込みを入れて結ぶだけで完成するものとししました。

さらに、このエコバッグ体験企画で生まれたはぎれを活かして何かできないかと考え、「一着を大切に」を私たちから広めていくために、「はぎれからストラップを作ろう!」という体験企画を考案しました。カラフルなTシャツを活かし、ひも状にカットしたはぎれを編んでい



「はぎれからストラップを作ろう!」体験企画

くことでストラップにリメイク。この企画も針と糸を使わず、安全に楽しく体験してもらえよう工夫しました。体験企画では、実際に古着を手にとってもらい、身近に感じてもらおうとともに、作業を通して私たちの取組や環境問題についての対話を生み出すことを意識しています。

どちらの企画も多くの来場者に楽しんでいただき、「これなら家にあるTシャツでできそうだね」といった声や、「デイサービスのレクリエーションに良さそう」と、子ども向けに考案した企画でしたが、高齢者の方の手の運動にも役立つとの声を頂きました。

衣服の回収は、立命館大学大阪いばらきキャンパス内に回収ボックスを設置して行っています。集まった衣服は体験企画や普段の団体での活動の材料として活用していますが、当初の予想を上回る回収量で、活用しきれない分は連携するリユース・リサイクル業者に引き渡しています。

現在は、大学の講義室の椅子が固いことから、はぎれと冬物の衣服を活用したクッション作りにチャレンジしています。私たちの活動によって、使わなくなった衣服を捨てるのではなく、「こんなことに使えるかな」とリユース・リサイクルする視点を持つきっかけを作りたいと考えます。おしゃれなリメイクだけでなく、日常の中で簡単にできるリメイクからスタートすることが、私たちRits CLOが目指す「サステナブルファッション」につながると考えています。



地域イベントで実施した回収した衣服を活用したはぎれアート

Rits CLO Instagram



長岡陽彩 (立命館大学 経営学部経営学科)
(2024年11月執筆)

なごみ
日和



KBS 京都 アナウンサー
うみひら なごみ
海平 和

- ● 第43回「京都府立植物園、つぎの100年に向けてできること」 ● ●
- 今年100周年を迎えた京都府立植物園。日本最古の公立植物園として1924年(大正13年)1月1日に開園してから100年、四季折々の美しい植物たちはその時代を彩り、訪れる人々を見守ってきました。
- 私自身、幼いころから家族に連れられ何度も足を運んだ大好きな場所で、たくさんの思い出があります。そんな植物園に先日息子と初めて訪れました。その日は大芝生地でステージイベントなども行われている日で大賑わい。その雰囲気や聞こえてくる音楽などに息子ののり、大はしゃぎで芝生の上をはい

はいでかけまわっていました。息子にとってもこの場所が大好きな場所になってくれたらいいなと願いながら楽しませて頂きました。

現在1万2000種類の植物を栽培している京都府立植物園。開園当初から、春には180品種の桜、秋にはおよそ1000本の色鮮やかな紅葉が府民たちを楽しませてきました。100年の中で展示する植物の数や展示エリアを増やし、今年は新たに国内外のおよそ20種類のどんぐりの木を集めたエリア「DongreenLab」もオープンするなど進化し続けています。だからこすずっといつの時代も愛される植物園であり続けるのでしょう。また貴重な植物の保全といった役割も担ってきた中で、昨今の気候変動をはじめとする様々な環境問題に対しその役割も大きくなってきているといえるでしょう。私たちの未来、後世の笑顔を守っていくため、私たちが今できることは何なのか、考える1日にもなりました。



海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京都経済テラス キュント!」、ラジオ「矢野勝也のま〜ぶる!」などに出演。

人と物と。 織りなす「もっぺん」物語



第 30 回

Nitro (ニトロ)

「想定外でした」店主の呉田さんは言った。「修理では、お客さんから“ありがとう”と言われるんです。お金をいただいて、更に感謝されるなんて」。

お母さまからの贈り物、イタリア製のキーケースが壊れた事がきっかけとなり革製品に興味を持った。その後は独学で制作の技術を学び、英語で書かれた本を自分で訳したり、疑問点は作者に直接手紙を書いたり、制作に没頭したという。

仙台から京都に拠点を移し、靴やベルト等の革製品の制作・販売をしていた当時、修理を始める転機となったのはお客さんからの声だった。そして、制作だけでなく修理の良さも感じたという。

革の魅力はやはり「使い込んだ味」。その人の身体にどんどん馴染んでくる。世界最古の革製品は、約5000年前のものと推定される履物だとか。

Nitroには、親から譲り受けた靴、思い出の詰まった財布などの修理や、体型の変化に合わせたベルトのサイズ変更など、様々な依頼がくる。どんな依頼もまずお客さんの要望を聞き、見積もりに納得してもらってから受ける。買い換えた方が値段が安く済むこともあるが、修理して長く使いたいという要望も多いそう。色をのせ直すだけでも、印象が明るくなり使い続けられるようになる。

革製品は日々のお手入れで長持ちさせることが出来るが、修理やリメイクもひとつの選択肢だ。お店の内装もすべて呉田さんの手で整えられたもので、遊び心がありワクワクするお店だった。一度、Nitroを覗いてみてはいかがでしょう。



店主の呉田智康さんとオリジナルの商品



靴の修理前、修理後

▶ Nitro

〒616-8208 京都府京都市右京区宇多野福王子町23-5 (2階) ※1階はメガネの修理、選定アドバイス等の相談ができる「森商店」
TEL : 090-9639-3500 営業時間 : 12:00~17:30 定休日 : 火・水曜日
URL : <http://nitro-dezzainn.com/>



岸 さゆり (2024年10月31日取材)

工夫を尽くして、美化活動 ゆるやかなルールで継続中

お揃いのベストを着て月3回の活動

朱雀第五学区地域ごみ減量推進会議（以下、朱五地域ごみ減）が活動する中京区の西南に位置するこの地域は、その昔、豊臣秀吉が築いた御土居の跡地でもあり、歴史が息づいている。

朱五地域ごみ減では、37ヵ町を毎月第1、3、5木曜日、9:30～10:30、火バサミと拾ったごみを入れるプラ袋を手に歩き美化活動を続けてきた。

スタッフは、毎回10名程度。雨や雪の日は中止だが、4年間継続し、学区内のごみ減量に貢献。最近では神明公園で実施する資源物回収日に、資源となるスプレー缶や蛍光管をはじめ、家庭で排出される資源ごみを持参する人が増えたという。



美化活動に参加した朱五地域ごみ減のスタッフの方々

火バサミを手に歩いて回ってごみ拾い

11月のある活動日の朝、朱五地域ごみ減の拠点である朱五自治消防会館前に向いた。この日の参加は9名。二人で組んで活動？と、思い込んでいたら、一人で決められたエリアを回るとのこと。前会長中井勝太郎さんに、同行取材となった。「本来ならペアで回りたいのですが…」と、会長。人数不足のためやむを得ずの対処法ようだ。

歩きはじめたものの、道にごみはない。「きれいでしょ」と言いつつ、中井さんは火バサミを道路の端へ差し出す。挟んだのはタバコの吸い殻。「最近、こればかりです」と呟きながら…。ごみ拾いを始めた頃はプラスチック類や

ティッシュなどもあったが、活動を重ね、年々雑多なごみが消えた。けれど、吸い殻だけではなくならないそうだ。

細く暗い路地に差し掛かると「ここは以前、ごみロードだった。空き缶や紙ごみやら捨てられて」と振り返り、最近では、ごみを見ることも拾うこともないと、中井さんは誇らしげな表情を見せた。



細い溝と溝の間も見逃さない



吸い殻を拾う中井さん。背中には中京地域ごみ減量推進会議と表示

ごみ拾いは健康の秘訣かも 街にも、自分にもいい

中井さんの担当エリアをまわり、拠点へ戻ると、各自の収集物をひとまとめにして燃やすごみ回収拠点まで持って行く。そして、その日の活動はこれで終了となる。

50分、ゆっくり歩いてジワッと汗をかく…。意識をごみに集中する…。回収後、スタッフみんなで会話する…。それらの行為が人にプラス作用をもたらすのだろうか。美化活動に参加したスタッフの方々の表情は明るい。「自分たちのごみや分別の意識が高くなった」、「最近では、ありがとうございますと、声をかけてくれる人も多く、やりがいを感じる」などの感想が届くという。

「これまでの経験を礎に、資源回収の告知などを徹底したい」と、新会長の金子悟さんは前向きな姿勢。街を愛し、いつまでも美しくとの思いが支えるごみ減量活動。さらに充実した動きになりそうな予感。これからも続けてと願わずにいられない。



美化活動のボランティア参加を呼びかけるチラシを手にする女性スタッフ。ベストの前面にはごみちゃんマーク

森田 知都子 (2024年10月17日取材)

『わたしのごみ減らし術』 ▶ Where are you from?

あなたはどこの出身？という意味の英語です。これを食品に問いかけてみませんか？日本の食料自給率は38%（2023年カロリーベース、農水省）。今日の朝食、パン食でアボカドも食べたとすると…。パンの原料は小麦粉。自給率は16%（カロリーベース）、84%が、アメリカ、カナダなどからの輸入です。アボカドは、ほとんどメキシコからで約1万キロも離れた国から運ばれて来ます。それなら、残さない、食べ切らないと…。見回すとあれもこれも輸入食料。Where are you from? この呼びかけを食べ尽くすためのモチベーションにはいかがでしょう。

森田 知都子